

(財)札幌市環境事業公社 情報誌 第10号

アンパス

un pas

フランス語で「一歩」の造語。一歩一歩お客様との絆を深め、
ともに環境への理解を深めるという意味を込めました。



『菖蒲』 小出 匡 作

2012年の新年を迎え、「アンパス」第10号をお届けいたします。

今号は、生活協同組合コープさっぽろ様が取り組んでいる環境事業「エコセンター」、(株)ばんけいりサイクルセンター様の生ごみリサイクル施設「定山溪環生舎」の施設のご紹介をさせていただきます。

本誌に対する皆様のご意見がございましたら、ぜひお寄せ下さい。

また、自社の紹介・PRなど、本誌に掲載希望の記事がございましたらお気軽にご相談下さい。

お客様 ご紹介

このコーナーでは、ごみの分別やりサイクルの推進に取り組んでいる、当公社のお客様をご紹介させていただきます。

今号では、生活協同組合コープさっぽろ様が推進する環境事業「エコセンター」の取り組みについてご紹介いたします。

させていただきます。

そこで今号では、生活協同組合コープさっぽろ様（以下、「コープさっぽろ」と敬称を省略して表記）が取り組んでおられるリサイクル事業について、ご紹介をいたします。

（財）札幌市環境事業公社は、札幌市内全域を対象に、2百台余りの収集車両により、約3万3千の事業所から排出される、年間約16万7千9百トンの一般廃棄物の収集を行うとともに、ごみの分別・リサイクルを押し進めるなど、札幌市が進める「ごみの適正処理・有効利用」の一翼を担っています。

一方、資源循環型社会への要請が高まるなか、当公社のお客様の中でも、独自にごみのリサイクルに積極的に取り組んでおられる事例が増えて

コープさっぽろの市内二十五店舗から排出されるごみのうち、「一般ごみ」と「生ごみ」については、当公社が収集運搬をさせていただくとともに、「生ごみ」については、市内の民間リサイクル施設に搬入し、飼料や堆肥へとリサ

イクルされ、酪農家や農家において有効利用されています。これに加えてコープさっぽろでは、各店舗や宅配事業などからの廃棄物の中に再利用が可能な「資源物」が含まれることに着目して、平成二十年十月から資源循環型社会に向けた取り組みの前線基地として、5億円超の投資により「コープさっぽろエコセンター」（江別市）を設け、独自の取り組みを開始しています。

これにより、従来は収集業者を経由して焼却や埋立にまわされていた各店舗や宅配事業から排出される多量のダンボール・発砲スチロール・紙類・廃食用油などを再生可能な「資源物」としてリサイクルする好循環を作り上げています。

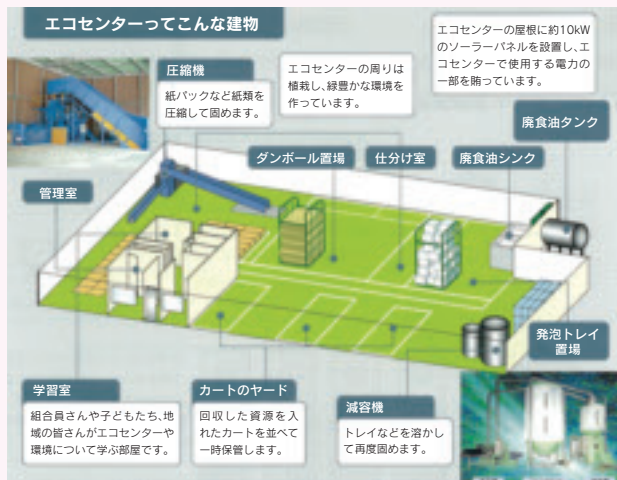
また、「資源物」のエコセンターへの運搬については、商品配送の復路便を利用するなど、CO₂の排出抑制とともに、

事業の効率化を図り、「資源物」のリサイクル業者等への販売なども行っています。



コープさっぽろエコセンター

次ページに、これらの取り組みの詳細をご紹介します。



■エコセンターの役割と回収した資源の流れ

全道の店舗や宅配で発生する資源と、組合員が排出する「資源」を回収し、再利用

- 回収は、店舗・宅配センターからエコセンターまで商品を運んだ帰り便を使うことで、費用とCO₂排出を抑えます。
- 紙類は圧縮梱包し、発泡スチロールやトレイ、容器などは溶解減容することで価値を高め専門業者へ販売、それ以外のものは加工せず専門業者へ販売します。
- 廃食用油は、BDF（バイオディーゼル燃料）化する専門業者を通して宅配システム「トドック」の車両の燃料として使用します。

2008年10月の稼働から、宅配システム「トドック」では、カタログ、宅配の内袋、紙バック、廃食用油を資源物として回収。2009年7月からは新たに新聞紙、ダンボール、発泡トレイを加え、7品目を回収。また、「トドック」で回収した資源は、廃食用油3円、その他1円の還元を実施。コープの店舗は、紙バック、廃食用油、発泡トレイ、アルミ缶の回収を行い、事業連携した業者とも協力して、回収量を順調に増やしている。

エコセンターの回収量と資源の流れ

資源物	2010年度実績	トータル回収量 (2008年10月～)	エコセンターでの処理	専門業者売却後のリサイクル品など
ダンボール	15,368t	36,755t	圧縮	再生紙 (トイレットロール・ダンボールなど)
紙バック	302t	662t		
カタログ	6,293t	14,814t		
新聞紙	699t	1,080t		
天ぷら油 (廃食用油)	671,742ℓ	1,375,973ℓ	一時保管	BDF (バイオディーゼル燃料)
アルミ缶	36t	70t	一時保管	再生アルミ
発泡トレイ 発砲スチロール	121t	255t	減容処理	再生プラスチック
内袋	71t	130t	圧縮	

これまで捨てられてきた多くの資源を再生利用することができ、また採算面でも収益事業として成功しているエコセンター。

コープさっぽろでは、今後も再生可能な資源の種類を増やすなど、どんどん新たなことに取り組んで施設をさらに活用し、環境事業の要となることを目指しています。

◇ 環境への取り組みがギネスに認定！ ◇

コープはCO₂の削減を目指し、家庭から回収した廃食用油を精製して作るBDF（バイオディーゼル燃料）で走る宅配トラックを使用しています。その数は直営配送トラックの5割に当たる300台で、ギネスにも認定されました。

現在は350台になっており、今後も使用の拡大に努めていくとのことですよ！！





生ごみリサイクル施設

都市生活で排出される大量の「生ごみ」は豊富なミネラルや栄養分を含んだ貴重な資源でもあります。今号では、これら“資源物”の堆肥化を行っている(株)ばんけいリサイクルセンター様の「定山溪環生舎」をご紹介します。



平成23年4月、(株)ばんけいリサイクルセンターは、札幌市が策定した「定山溪地域バイオマスタウン構想」の中核施設として、農林水産省の地域バイオマス利活用交付金による支援を受け、定山溪地区に「定山溪環生舎」の稼働を開始しました。

この施設は、定山溪地区のホテル・旅館等を中心に札幌市内から排出される生ごみ年間4,000t、一般家庭の草木類3,000t、街路樹等の剪定枝2,000tを、独自の技術による高温熟成発酵処理方式を使って処理再生し、年間2,000～3,000tの堆肥を生産します。

堆肥製造方法は、受入原料の生ごみ等にバーク等副資材と戻し材を加え混合し、60～80℃で堆積循環送気発酵したものを選別、さ

堆肥製造(混合)の様子



らに30～40℃で堆積熟成発酵させます。良質な堆肥になるまでには約180日間を要します。

製造された生産

堆肥は札幌市内の農家に販売し、ほうれん草、小松菜等の茎葉野菜・果実の栽培に有効利用されます。

また、生産した農作物を札幌市内のホテル・旅館などで食材として活用する「地消地産の地域内循環」の役割も期待されています。



生産された堆肥



定山溪環生舎は資源循環による地域の活性化とより良い土壌づくりによる農業生産の活性化の双方に貢献する施設を目指しています。

施設概要

所在地	札幌市南区定山溪 896 番地 3
事業主体	株式会社 ばんけいリサイクルセンター TEL011-867-2320 FAX011-867-2322
建築構造	鉄骨造平屋建
敷地面積	42,506.88m ²
延床面積	6,911.41m ²
処理対象	生ごみ、草木類、剪定枝
処理能力	年間 9,000 トン
操業開始	平成 23 年 4 月

平成24年2月発行

編集・発行／財団法人札幌市環境事業公社
札幌市中央区北1条東1丁目 サン経成ビル

<http://www.kankyousapporo.jp>

- 本誌に関するご意見、ご要望等
電話 219-2053 FAX 219-0882
- 事業系一般廃棄物の収集全般に関すること
電話 219-5353 FAX 219-0053